

*****ここから『電子耕』*****

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第71号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

2001.11.22 (木) 発行 東京・ひばりが丘 原田 勉

*****発行部数 1859部*****

<キーワード>

農林・園芸を中心として健康・食べ物・図書・人名・庶民の歴史をめぐる情報を提供し、お互いに<読者の声>のメール交換をしましょう。

目 次-----

<読者の声>"やさしいあくま"さん、さかもとさん、斎藤さん、櫛間さん

<舌耕のネタ>「農業自由化は輸出する国も輸入する国も減ぼす」

<菜園だより>日本水仙のつぼみが見えてきました

<食生活情報>「新たな食のライフスタイルを提案するフェア」

<中国友好情報>第8回東京農工大学中国同窓会総会の報告

<日本たまご事情>それは中国卵の輸入から始まった(3)

<農業・図書情報>農文協図書館上期事業報告

<農業・図書情報>農文協図書館の菱沼達也文庫紹介

<私の近況報告>11月8日~21日

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけでは無く、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

<読者の声>

■11/8 "やさしいあくま"さん:『電子耕』より、前月号から購読

電子耕、前号から購読させていただいております、滋賀県で自宅浪人をしている18歳です。

今年是一日中家にいるという生活習慣のためか、人生について考えることが多いです。『電子耕』購読の動機は、発行者さまとの年齢差が、自分に与える示唆の大きさに期待してのもでしたが、現在二冊受け取った時点で、その期待をはるかに上回るものである、という確信を得ています。

挨拶が遅れて申し訳ありません。これからも私たち21世紀を見つめる後輩たち

へのメッセージを送信しつづけてください。

それでは、お身体には気をつけて。

草々

●コメント：11/9、返信：『電子耕』より

メール有難うございました。18歳とは羨ましい。これから可能性は無限です。私の18歳はやはり浪人中でしたが、12月には飛行機工場に徴用され、エンジンの試運転工を1年。19歳の12月には軍隊に召集され、整備兵になりました。しかし整備する飛行機はみな特別攻撃にまわされ、一度も触ったことはありませんでした。米軍の空襲を受け逃げまわっているうちに1945年8月15日敗戦を迎えました。農林専門学校に入ったのは20歳の11月でした。

その後のことは、69号と70号に書いたすぐれた二人の恩師に出会い、現在に到っています。

戦争のあと、道が開けたのです。

あなたも、元気に我が道を明確にして進んで下さい。それには体を鍛えておくことも大事です。アウト・ドアーをお勧めします。ではまた。

■11/10 さかもとさん：1/146の挨拶、

1924年生まれの新人です、皮肉でなくロートルパワーを感じて仲間入りお願いします。よろしく。

●コメント：11/10 返信：

メール有難うございました。1925年生まれですが、いまでもって、老後をいかに生きるか分らないでいます。教えて下さい。先輩からのメールは初めてです。貴方はどこでどうしていられますか。ついなつかしくて知りたいと思いました。

■11/11 さかもとさん：再返信

身に余る丁重なる御返事嬉しく、さて何を言うたら御期待にそうやら等といら

ぬ思案を枕に心に移るよしなしごとをうてばひびかぬゆっくりムードでぼちぼちまおしはべります。そのわけは、はじめてから10ヶ月のI.T,シニアで腕が生とてもじゃないが、打てば響くちゆうわけにまいりません。肝心の事忘れるとこでした、住まいは堺市ジョブは測量士一応現役の老兵つい最近も国土地理院の世界測地系導入に伴う座標変換と水準点の標高改定の説明研修会にでましたがもう若い人ばかりで小生が参加者の中では最年長のような感じでした。原田さんと同じ思想的スタンスと思いますが70過ぎてから少し老子の匂いと言うか衣が掛かって来たようにおもいます、無為の哲学と言うかまあそこまで行くと行き過ぎだと言う御意見もありますが。兎も角そう言った悩みと迷い多き Old man です。大阪にも東大阪市と言うのが有りますが、長い間布施市と言ってきたのが今ではなんともありません、西東京市も田無市等が合併して今年から出来た市ですねその内に慣れて何とも無くなるでしょう。戊辰戦争のクライマックスを勝と西郷が演じた歴史的地名も時代の流れに埋もれて行くわけですね。それは兎も角なんと取りとめないたわごと、大事な事一つだけ申し上げて今日は終わります、もう我々はいいいんですが若い人の生命が危ないです歴史を繰り返させてはならない。――以上

●11/11 コメント：再再返信

さかもとさん。

ご返事感謝。「電子耕の声」欄第71号に掲載させていただきますせんか。先日18歳の若者が老人の考えを知りたいからと申し込みがありました。経験を交流したいと思います。締切は18日です。

■11/12 さかもとさん：再再返信

どうぞ――構えてないのが良いと言う意味で未完もいいところですが。

■11/13 斎藤さん

原田先輩

今日病院に行ってきました、先日撮ったMRIの結果を聞くためです。脳梗塞の跡が10円玉ほどの大きさではっきりと白く浮かび上がっていました、医者はこの場所は運動を司るからもっと運動障害が出るはずだと嫌なことを言います、さらに動脈硬化が進んでいるから再発の可能性大ときました。

すっかり落ち込んでいると娘からメールが来ていて、題名は『タマゴ私設応援団 玉子屋っ子世にはばかる』たまご料理のエッセーみたいなもので親父にチ

ェックしてほしいのだという、すこし元気がでました。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

●11/14 コメント：齋藤さんへ

齋藤さん。メール有難うございました。私の脳出血の時も初めは10円だまでした。右脳の運動中枢をわずか数ミリそれていたので、1か月で後遺症は左の腕にわずか残っています。でも舌の廻りも、足の重みも他人には分らないが、自覚はあります。再発の予感はしています。

それが刺激になり、また骨髄腫の告知ときて、ますます、残りの時間をいかに使うかを考えています。余命1年と考え、次の1年があればもうけもの、「ネットに助けられて、老後をいかに生きたか」をまとめておきたいと思っています。

できるだけ、ケセラセラと構えて

余生を送りましょう。その内また、良いこともあるでしょう。お元気に。

また書いて下さい。励みになります。

■11/15 名無しさん：はじめまして

こんばんわ！私は熊本の天草に住む17歳、高三です。苓明高校に通い畜産などを学んでいます。メルマガ読ませていただきました。大変面白かったです。私は就職も美容という仕事に決まり、ホッとしています。私にはもう一つ夢があります。それはバイクのレーサーになることです。目標は鈴鹿8耐にです。学校で先生の先生にその夢を話しても、相手にしてもらえず笑ってすまされました。原田さんはこういったことを経験されたことはありますか？実際本当はバイクの製造の仕事がしたかったのですが、やはり男女不問と書いてあっても、いくら私が他の男よりやる気と続ける自信があるとしても、男性優先なんです。これが現実ですので仕方ないと言ってしまえばそれで終わりなのですが。ぜひ、原田さんのご意見をお聞かせください

●11/15 コメント：

名無しさんへ。

メール有難うございました。でも自分の名前を書かないと返事のしょうが

ありません。天草農業学校は私の母校ですから先輩として助言します。自分のやりたいことは、何年かかっても機会をつくるべきでしょう。私は飛行機にエンジンの試運転工の経験もあり、バイクにも何年か乗っていましたが、本職はジャーナリストです。レースのことも解りません。畜産科を勉強しても美容師になるしかない。それをやりながら、夢を実現するにはどうしたらよいか。それを真剣に考えて下さい。

あと3年もしても、考えが変わらないなら本ものになるでしょう。早く一人前になるように努力してください。

■11/16 櫛間さん：こんばんわ

先程は名前を書き忘れてしまい、失礼しました。私の名前は 櫛間 幸子といたします。お返事ありがとうございました。私もレーサーには何年かかってもいいからレーサーになるという決心はありました。原田さんのアドバイスを聞き大変参考になり、もう一度今の自分を 見つめ直してみようと思います夢は実現させるために、あると思うのでレーサーになれるようがんばります。原田さんもこれから、色々な事があるかも知れませんが、がんばられてください。これからはメルマガを応援しています。最後になりましたが、学校の方へ たくさんの本をいただき、ありがとうございました。今日はお返事がいただけて、うれしかったです。ありがとうございました！

●11/16 コメント

櫛間幸子さん。返信わかってもらって有難うございました。私は本渡市佐伊津町出身です。電子耕への意見を若い人に期待します。またメールを下さい。

<舌耕のネタ> 「農業自由化は輸出する国も輸入する国も滅ぼす」

農工大農経会で栗原幸一教授の『農業自由化』の原論的検討を聞いた。難しい原論は、マルクス経済学と近代経済学の『農業経済学』を勉強して頂くとして、農業生産の基礎は「土地」であること。それは気候・風土のよってそこに生育・生産される動植物に依存している。条件はさまざま違う。現在優位の土地と生産が永久に続くとは限らない。分かりやすいところだけ栗原さんの主張を紹介しよう。

その一つとして、アメリカと日本の例を見よう。現在アメリカは小麦、とうもろこし、大豆などの農産物を1年に1億数千万トンも輸出している。そのうち日本は2900万トンを入力している。つまりアメリカは土地の栄養分（窒素・リン酸・カリ）800万トンを輸出して国土を疲弊させ、自然破壊を進行させている。日本も農産物輸入によってその3要素を日本の土地に投入して日本列島内外の水域の富栄養化を起し、地下水の硝酸汚染など自然破壊を進行させている。つまり農産物を輸出する国も輸入する国もともに自然破壊を進行させ、やがて国を滅ぼす。これは中国・東南アジアからの農産物輸入・輸出でも同じである。土地は輸出も輸入もできないが栄養分の輸出は行われ、いわば環境ダンピング・労働ダンピングという形の国際自由化が実態である。

私を感じたことは、現在もすでに毎年その害悪が進行している。狂牛病も骨肉粉を含む飼料が安いとって輸入したことからは始まったと言ってよいと思う。旨い物だけ世界各国から輸入して食べているわれわれの責任もあるだろう。それが今後も将来もどうなるか。環境汚染と病気の蔓延は免れないのではないか。子孫はどうなるのか。改めて食料の自給と農業の健全化の大切さを思った。

<菜園だより> 日本水仙のつぼみが見えてきました

9月上旬引っ越しした直後に植えた水仙が本葉5、6枚伸びてその真ん中から可愛いつぼみが出で来ました。この分では正月前に咲くのは確実でしょう。ひと雨毎に育つ花や野菜は頼もしい。

11月1日に蒔いた八丈島のカキナも双葉から本葉が出てきました。18日の清掃日には桜の落ち葉がたくさん出ました。燃やせば公害、堆肥にすれば資源のリサイクル、自然に返しましょと、私が貰って畑の隅に撒いて土をかけ堆肥にすることにしました。

<食生活情報> 「新たな食のライフスタイルを提案するフェア」

「新たな食のライフスタイルを提案する食生活フェアを開催します！」

<http://www.ruralnet.or.jp/shoku2001/index.html>

このたび地域に根ざした食生活推進委員会（委員長：坂本元子和洋女子大学家政学部長、事務局：社団法人 農山漁村文化協会）では、地元の旬の産物や

伝統的な食べ方、食文化を活かした豊かで健康な食生活の実現を目指し、12月1日、2日の両日「地元の宝を探そう！創ろう！」をテーマに「地域が輝く いきいき食生活フェア 2001」（入場無料）を、以下の要項の通り開催いたします。この展示会は、昨年3月に文部省・厚生省・農林水産省（名称はいずれも当時）が合同で策定した「食生活指針」を踏まえ、新たな食のライフスタイルをさまざまな観点から提案するユニークな参加・体験型展示会です。ご家族ご友人をお誘いのうえ、是非お越し下さい。

■日時 12月1日（土）、2日（日） 10:00～17:00（2日は16:00まで）

■場所 新宿NSビル地下 大展示ホール

（東京都新宿区西新宿2-4-1／JR新宿西口または南口徒歩10分）

■主催 地域に根ざした食生活推進委員会

（委員長：坂本元子和洋女子大学家政学部長）

■提唱 農林水産省 ■後援 文部科学省、厚生労働省 ほか

■内容

○いきいきライフスタイルシアター（料理教室と講演 他）

3人の専門家による料理教室と講演会を行うほか、「地域に根ざした食生活推進コンクール 2001」の表彰式と受賞事例の発表会を開催します。

<12月1日>

13:00～14:00 「食生活で決まる歯と健康」

丸橋賢（良い歯の会・丸橋歯科クリニック院長）

15:00～16:00 「料理を変える 自家製濃縮だし」

千葉道子（食育ネットワーク主宰・料理研究家）

<12月2日>

11:00～12:00 「環境・財布・健康を守る『まるごと食』」

福井幸男（全日本調理師連盟会長）

13:00～15:00 地域に根ざした食生活推進コンクール表彰式・発表会

○常設展示

「食生活指針」を日常の食生活に活かす展示コーナーを中心に、「食と健康」「食文化」「エコライフ」「食農教育体験」「自然な暮らし」のテーマ毎に、参加・体験型の展示を行います。

白神山地の天然酵母から作ったパンや手作り糰による甘酒の試食もあるほか、フェアに向けて特別に作られた「東京（町田市）の地産地消弁当」も登場。また、体脂肪測定や味覚テスト、パソコンによる食生活の自己診断、「食べものの母」土の機能実験、プロの指導による稲ワラ等を使った「食卓を彩るクラフトづくり」、日本や古代エジプトの石臼による粉挽きなどバラエティに富んだ

参加・体験型展示を展開。高知県からは卵も産むペット鶏「プチッコ」がやってきます。

このほかに高齢者や障害者も安心して使える便利な調理器具や手作り加工器具、珍しい日本や世界の食器などの展示、家庭園芸ファンや田舎暮らし志願者に嬉しい、園芸相談や自然な暮らしの情報コーナーもあります。

■ 問い合わせ先

「地域が輝くいきいき食生活フェア」事務局
(社団法人 農山漁村文化協会 提携事業センター内)

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

Tel.03-3585-1144 Fax.03-3585-6466

<中国友好情報>第8回東京農工大学中国同窓会総会の報告

東京農工大学日中友好会では去る9月23日から29日の日程で浙江大学農学部で行われた第8回東京農工大学中国同窓会に出席のための訪中を行った。

その模様はインターネットで紹介されている。総会の記念写真には中国側18人、日本側13人が映っている。(詳しくはホームページをご覧ください)

<http://jc-yuko.gr.jp/>

日本側訪中団代表は、鈴木隆団長、松本正雄顧問、下田博之会長、立石洋見秘書長である。中国側代表は、傅教授(対外交流副部長)、童芍素教授(副校長)楼程富教授(教務処長)などであった。

浙江大学游修齡教授の稲作起源について講演があり、農工大学瀧野雄二郎助教授の中国人留学生の現状報告・講演があった。

総会後の見学・観光の旅は、良渚文化博物館見学。前5000年頃の良渚・稲作文化遺跡発掘現場「反山遺跡」の一部を見た。魯迅記念博物館見学、蘭亭の偉容に感心する。天一閣(最古の蔵書館)、天台山国清寺に参詣など。

<日本たまご事情>それは中国卵の輸入から始まった(3)

1922年、中国卵の輸入はピークに達したが、それを溯ること10年間いっつも中国からの輸入卵は国内の養鶏農家を圧迫していた。

当時、鶏卵輸入業者とそれを取り扱う国内の鶏卵問屋筋が消費者を巻き込んで鶏卵の輸入関税撤廃を国会に働きかけた、これが物価高騰に悩む政府を動かして撤廃につながった（1920-1924）。当時養鶏農家と関連流通業者の利害対立は激しかった。

政府及び国会では「現在の日本の養鶏の実力では到底輸入卵に対抗することはできないので、むしろ中国卵の輸入関税を撤廃して国民に安い卵を食べさせ、物価下落の呼び水にするほうが良い」との見方が強かった。

これに反発した養鶏農家は1927年（昭和2年）の世界恐慌とそれに続く日本の農村恐慌のなか養鶏による現金収入と肥料代節約を目指す有畜農業による自力更生を訴えた。

当時日本の花形輸出産業であった養蚕、お茶、柑橘、等が世界恐慌で輸出先を失い農村恐慌につながった。

やがてそれに代わるものとして始めて養鶏は国策として取り上げられた、目的はあくまで疲弊した農村の救済であった。

ちなみに当時の鶏卵摂取量は輸入卵を含めて一人年間34個（1927）であり大変な貴重品であった、病気にでもならなければそれは食べられなかった。

<農業・図書情報>農文協図書館はこんな活動をしている

平成13年度上期事業報告書（財団法人農文協図書館）

【1】図書館のインターネット利用の充実

今期から図書館にIT担当をおき、インターネット利用の向上を図った。

1、上期に農文協図書館インターネットで公開した個人文庫と蔵書数

平成12年度迄に公開した個人文庫は、近藤康男12, 261点、守田志郎文庫1, 219点、山崎不二夫文庫1, 363点、松尾孝嶺文庫1, 486点、福島要一文庫836点、川田信一郎文庫1, 719点、合計18, 884点であった。

今年度上半期は、岩渕直助文庫166点、浪江虔文庫452点、団野信夫文庫1,465点、菱沼達也文庫434点、大谷省三文庫337点、合計2,854点であった。個人文庫の延べ点数は21,738点になった。

現在入力中で下期公開予定のものは、野口弥吉文庫、佐藤正文庫、古瀬傳蔵文庫、岩崎文雄文庫、石川英夫文庫、和田博雄文庫、柏原孝夫文庫、近世農書一覧・底本などである。

2、図書館利用設備の充実

(1) 蔵書検索のスピードアップを計った。

本年7月から蔵書検索用サーバーをより高速なマシンに切り替えた。また、データベース内容も点検し、より正確なものにした。

(2) 関連リンク集を新設した。

農林水産関連情報検索サイトとして「農林水産省図書館」「農林水産研究Web Server」「ルーラル電子図書館」「日本農学図書館協議会」「日本図書館協会」「専門図書館協議会」「日本国内図書館OPACリスト」をリンクした。これによって農林水産関係の殆どの情報を検索できるようになった。

(3) 来館者のため館内に「お客様専用の蔵書検索用パソコン」を設置した。

公開書架と個人文庫にある蔵書6万件を自由に検索できるようになった。このパソコンで検索出来るのはその他に、農文協の「ルーラルネット」のすべての閲覧(ルーラル電子図書館の無料部分)、「田舎の本屋さん」の書誌検索、「食と農の学習のひろば」の閲覧、学校図書館巡回グループ「NCLの会」のページの閲覧ができる。

(4) CD-ROM閲覧ができる。

2001年5月現在、農文協制作の以下のCD-ROMが閲覧できるようになった。

・農業技術体系2001・現代農業2001・日本の食生活全集2000・総合的な学習2001・病虫害・雑草の診断と防除2001・花卉病虫害の診断と防除2001

以上のCD-ROM閲覧希望者にはノートパソコンを2時間を限度として貸出し、ノートパソコン利用優先席で閲覧して頂くことになった。

(5) お客様が自分のパソコンを持ち込み、メモなど記録出来るようにした。

パソコン利用優先席にコンセントを置き、利用しやすくしたもので、あくまで蔵書閲覧の便宜をはかるため、一般のインターネットへの利用はできないことになっている。

【2】今期の図書館利用状況

1、今期は入館者・新規登録者ともに前年度より減少しているが、新規登録者で研究・教育者は増加し、閲覧・貸出数も増加している。これは閉架式個人文庫のインターネット公開が増え、蔵書数が62,000点になったことによると思われる。

2、地方の大学・公共図書館からの貸出依頼が増え9回（18冊）になった。北海道北星学園大、仙台市、郡山市、佐倉市、名古屋短大、豊明市藤田学園大、伊予三島市、高知窪川町、高知大、福岡・八女市。

3、FAXによるコピー依頼は8件、蔵書確認は4件あった。

4、CD-ROM閲覧は5～7月にかけて9件、中でも現代農業の検索のようであった。（以下省略）

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/>

<農業・図書情報>農文協図書館の菱沼達也文庫紹介

菱沼達也（ひしぬま たつや）1911～1995

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/081hishinumabunko.html>

略歴：1911（明治44）年山形県天童に生れる。

30年山形高校理科乙類卒業、千葉医科大学に入学。

32年同学中途退学。この間、反戦運動、農民運動に参加し、治安維持法より検挙される。

35年日本獣医学校本科編入学、

37年同校卒業、東大農学部獣医学科入学。この頃東大農学部農業経済学研究室に出入りして近藤康男先生に師事、終生の恩師とした。

40年東大農学部獣医学科卒業、馬政局嘱託。

41年興亜院嘱託、蒙疆地区馬産調査、馬事研究所技手。

46年畜産試験場農林技官。
47年福島種畜場兼務、農事試験場鴻巣試験地。
50年関東東山農業試験場栽培第2部第6研究室長、シロカキの研究に従事し山崎不二夫先生の助言を受け著作として刊行。
53年農林省の労働組合・全農林全改良委員長。
54年東京教育大学農学部助教授・総合農学研究室。
61年東京教育大学農学部教授。
62年論文「農家の経営条件と畜産形態」で農学博士。
63年東京教育大学農学部成田分室を千葉県成田市豊住地区に開設。
66年総合農学学会事務局を引き受ける。この頃から70年にかけて筑波移転に関わる学内問題の解決に尽力。
72～74年日本学術会議会員。
73～82年「なりた新聞」発行・主筆。
74年東京教育大学を定年退官して成田市に住み「役人脱皮」を志す。浄土真宗の僧侶となる。
74年『私の農学概論』の刊行により第1回山崎農業賞受賞。その後「大原幽学」「ホイットマン」についての研究に専念する。
95年7月24日死去84歳。

主な著書

『農業経営と馬産-栃木県那須郡金田村に於ける実態調査報告書』近藤康男と共著 農業技術協会 1947
『酪農経営への道』八雲書店 1949
『シロカキの研究』山崎不二夫編 金原出版株式会社 1959
『日本畜産論』農山漁村文化協会 1962
『研究も改善も農民とともに』（農村文化運動29号）農山漁村文化協会 1966
『養蚕作業の研究-農民的養蚕の探求-』農山漁村文化協会 1966
『私の農学概論』農山漁村文化協会 1973
『村と学校を結ぶ-東京教育大学農学部成田分室報告・第1～第7報』
『朝鮮の人と農業』農山漁村文化協会 1976
『ただいま役人脱皮中』日本イリゲーションクラブ 1978
『四人組をつくったのは誰か』農山漁村文化協会 1980
『農魂の人・千葉の農民運動家-山本源次郎と実川清之-』崙書房 1986
『大原幽学と百姓たち』崙書房 1990
『一人芝居 大原幽学と百姓たち』（シナリオ）私家版 1991

<参考資料>

『研究も改善も農民とともに-故菱沼達也先生追悼集-』 追悼集編集委員会
会 1996 (経歴・著作目録を含む)

思い出：農村調査の相棒・菱沼達也君 近藤康男

「菱沼君は研究課題としては社会的・経済的問題を抱きながら実験や実態調査などを重んじた人だと思います。総合農学というのはそうしたものでしょう。

彼の学問的遺物が農文協図書館に菱沼文庫として保存されていますが『シロカキの研究』をはじめ、馬や酪農の現地調査で集まった資料の蓄積です。

私も農村調査を大切な研究方法、いや研究エネルギーの源泉としましたから、彼は私にとってよい相棒でした。協力調査の最初は栃木の金田村の馬産調査でした。あれは満州事変から中国侵略へとエスカレートした時代です。

(中略)

軍用馬は鍛錬のため毎日運動することを農家は強いられたことなど、どこでも悲鳴をあげる状態でした。そうした事情を馬政も考慮せねばとなって、馬政局は昭和12年から14年まで、本格的な馬産経済実態調査をしたのでした。

その資料を研究用として彼の教育大学研究室に置いてありました。大学退官にあたって農文協図書館の菱沼文庫に移されたのです。彼の功績となすべきものの一つでしょう。

私はこの調査のため現地へ何度も足を運びましたが、予備調査から報告のとりまとめまで、菱沼君が一番多く骨折りをしてくれました。

この調査報告の原稿は彼のまとめによって調査後まもなく出来上がり、すでに印刷へ廻っていましたが空襲に遭い、原稿だけが焼失を免れ、戦後農業技術協会の手で出版された『農業経営と馬産』であります。戦時中の農村の状況を語っている貴重な資料だと思います(後略)」(同上追悼集から抜粋)

<私の近況報告> 11月8日～22日

・毎月上旬は多発性骨髄腫とC型肝炎の定期検診である。二つの病院とも「現在のところ安定している」との診断であった。恐ろしいガンの話も平常心で聞けるようになった。でも限りある命には変わらない。その間に何をなすべきかを考える。

・11月10日、東京農工大学農業経済学科卒で組織している農経会に参加する。栗原幸一氏の『「農業国際化」の原論的検討』を聞く。農業の自由化は輸出する国も輸入する国も自然循環からの完全な逸脱により環境汚染を招くと警告した（詳細は<舌耕のネタ>に述べる）

・11月16日、農工大日中友好会の事務局会議に参加。1月末に行う来年度の総会对策、とくに創立10周年記念事業に日中学生の交流を計画することなどを相談する。21世紀は中国の時代になるだろう、農工関係企業も活発に交流を求めている。そのとき東京農工大学の共同学術研究・人事の交流はいかにすべきか。若い世代の参加が求められる。

・11月18日、アパート40戸の人たちが第3日曜日はまわりの清掃をするひです。これが3回目だんだん知り合いが増えました。

・11月22日、農文協図書館の今後の体制・人事について近藤康男理事長・坂本尚理事・原田 勉常務の打ち合わせを行う。

— P R —

■■■■ 劇団文化座創立60周年記念第2弾 斎藤真一没後10年
■■■□ 劇団文化座・サンシャイン劇場提携公演
■■□□ 『 瞽女さ、きてくんない 』
■□□□ 脚本／堀江安夫・演出／佐々木雄二
□□□□ 公演日程 2002年2月9日（土）～17日（日）
□□□□ 会場 池袋サンシャイン劇場 前売開始 2001年12月3日（月）
<http://bunkaza.com/>

— P R —

『電子耕』から大切なお知らせ
<http://nazuna.com/tom/10.html>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第71号

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2001.11.22 (木) 発行 東京・ひばりが丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

発行部数 1859部 **ここまで『電子耕』*****

.